

# 沿岸定線観測速報 ちば (2024年1月)

千葉丸：1月7,8,27,28日

千葉県水産総合研究センター  
千葉県農林水産技術会議  
令和6年2月5日

黒潮は、房総沖で接岸し、北東方向へ流れていました(図2)。  
水温は、銚子・九十九里海域は概ね平年並、外房海域は概ねやや高めでした(表1)。

## 【詳細】

沿岸水温は、銚子・九十九里海域は水深0,50,100mが平年並、水深200mは平年よりやや高めでした。外房海域は、水深0mが平年並で、水深50,100,200mは平年よりやや高めでした(表1)。

水深10mの塩分は、河川水の影響を受け低塩分化しやすいごく沿岸でも34.6PSU以上となっていました(図3)。この高塩分水は、ごく沿岸では海面から水深100m前後まで、沖では海面から水深300m前後までの厚みを持って分布していました(図6)。

黒潮は接岸して北東へ流れ、黒潮の北縁付近では北東へ向かう2~4ノットの極めて速い流れが見られました(図2)。

クロロフィル濃度は、水深10,50mともに、1 $\mu$ g/L以上の海域は見られませんでした(図7)。

キンメダイ漁場の水温は、勝浦沖では海面から底層まで例年より1~3 $^{\circ}$ C高め、銚子沖では水深100m以深が例年より1~2 $^{\circ}$ C高めでした(図8)。

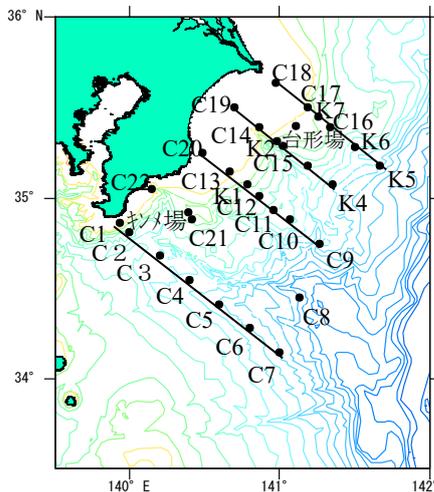


図1 調査点

線は北から犬吠埼、九十九里、太東岬、野島埼南東線(k4, k5は欠測)

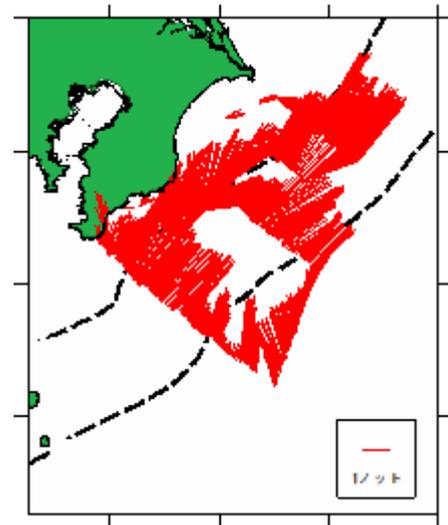


図2 黒潮流路(破線)と流況

表1 海域別平均水温( $^{\circ}$ C)と評価

海域	0m	50m	100m	200m
銚子・九十九里	17.4 平年並	17.5 平年並	17.2 平年並	17.2 やや高め
外房	19.0 平年並	18.8 やや高め	18.4 やや高め	16.0 やや高め

\*水温評価点 銚子・九十九里海域：C14~20 計7点、外房海域：C1,3,11,13,21,22 計6点

\*沿岸水温評価の目安 ( $\sigma$ ：標準偏差)

きわめて高め	2.0 $\sigma$ ~
高め	1.3 $\sigma$ ~ 2.0 $\sigma$
やや高め	0.6 $\sigma$ ~ 1.3 $\sigma$
平年並	0.0 $\sigma$ ~ 0.6 $\sigma$ , -0.6 $\sigma$ ~ 0.0 $\sigma$
やや低め	-0.6 $\sigma$ ~ -1.3 $\sigma$
低め	-1.3 $\sigma$ ~ -2.0 $\sigma$
きわめて低め	-2.0 $\sigma$ ~

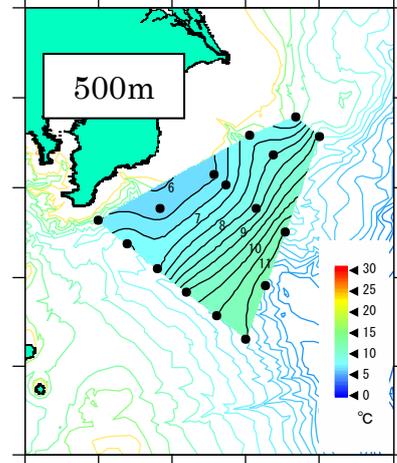
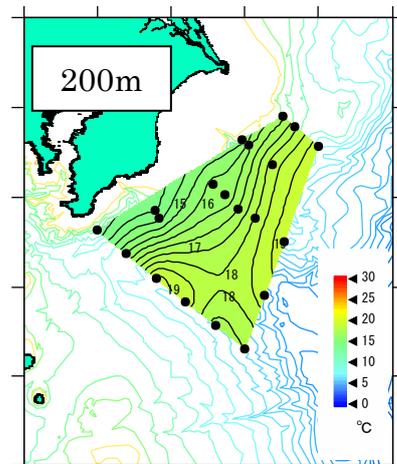
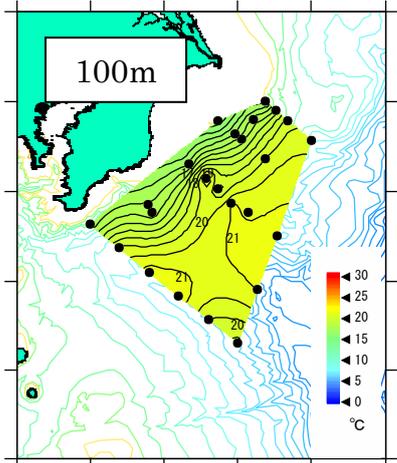
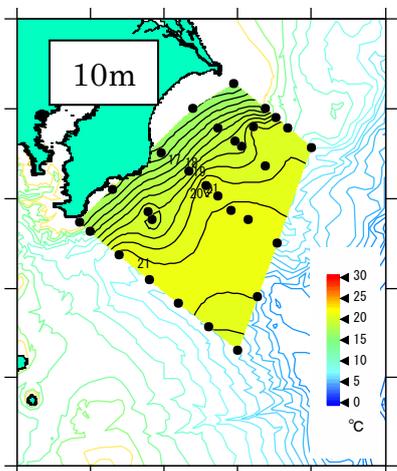


図3 水深別の水温分布

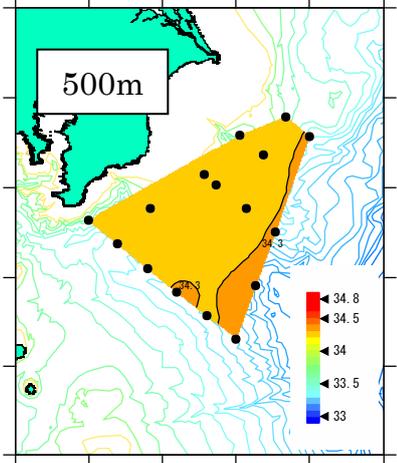
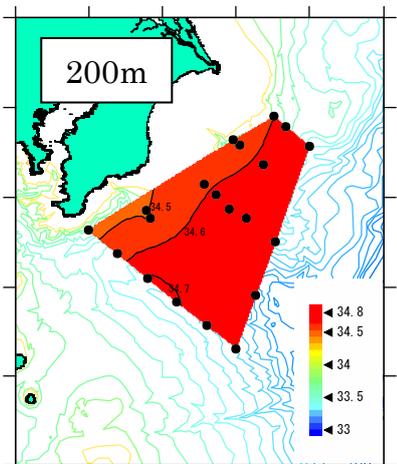
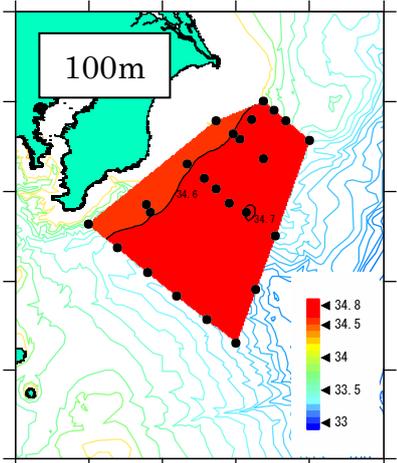
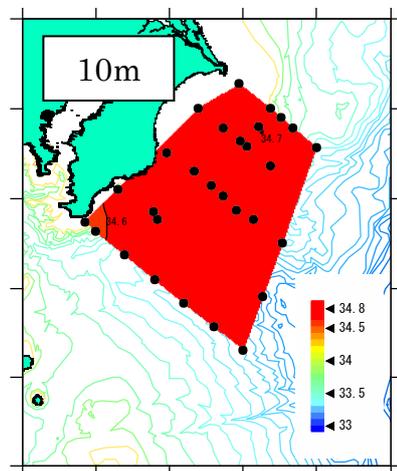


図4 水深別の塩分分布

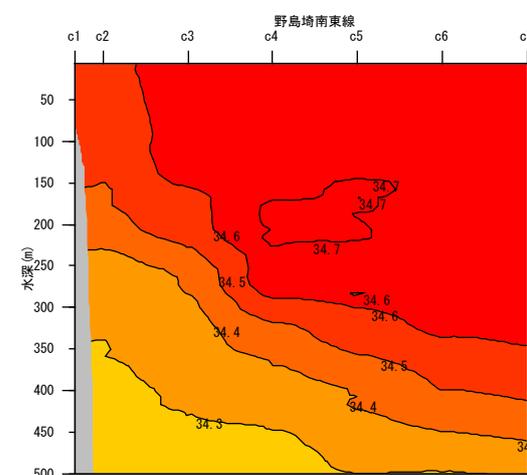
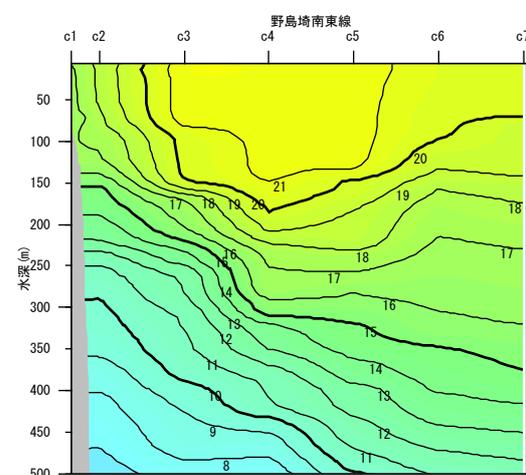
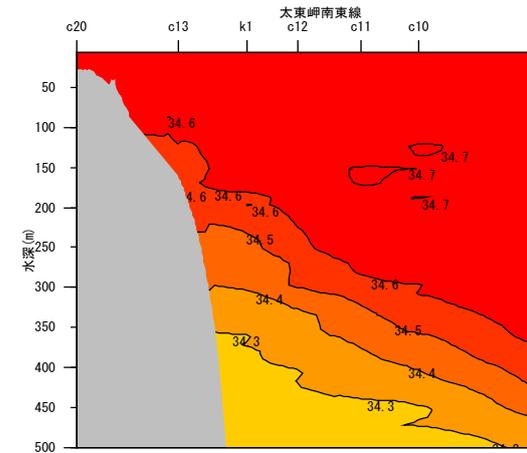
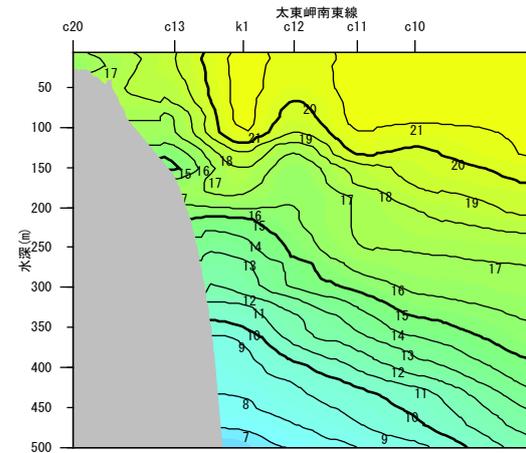
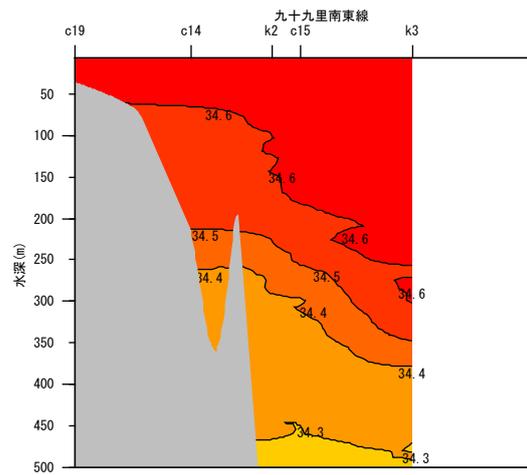
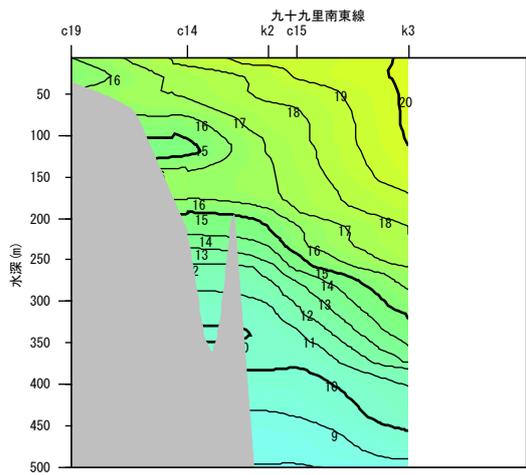
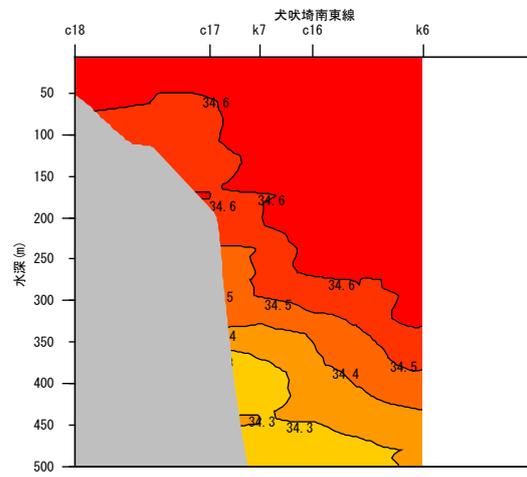
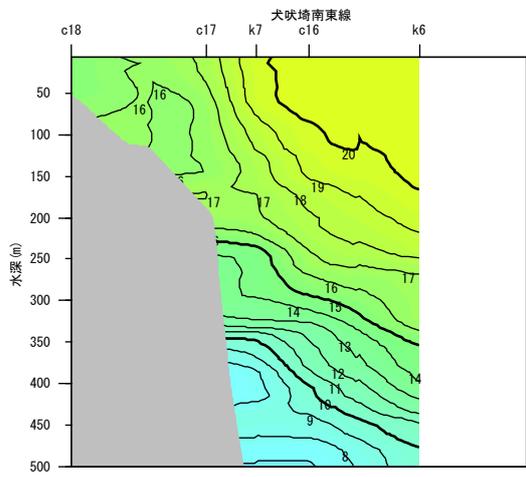


図5 水温鉛直分布

図6 塩分鉛直分布

上から犬吠埼，九十九里，太東埼，野島埼南東線（図1参照）

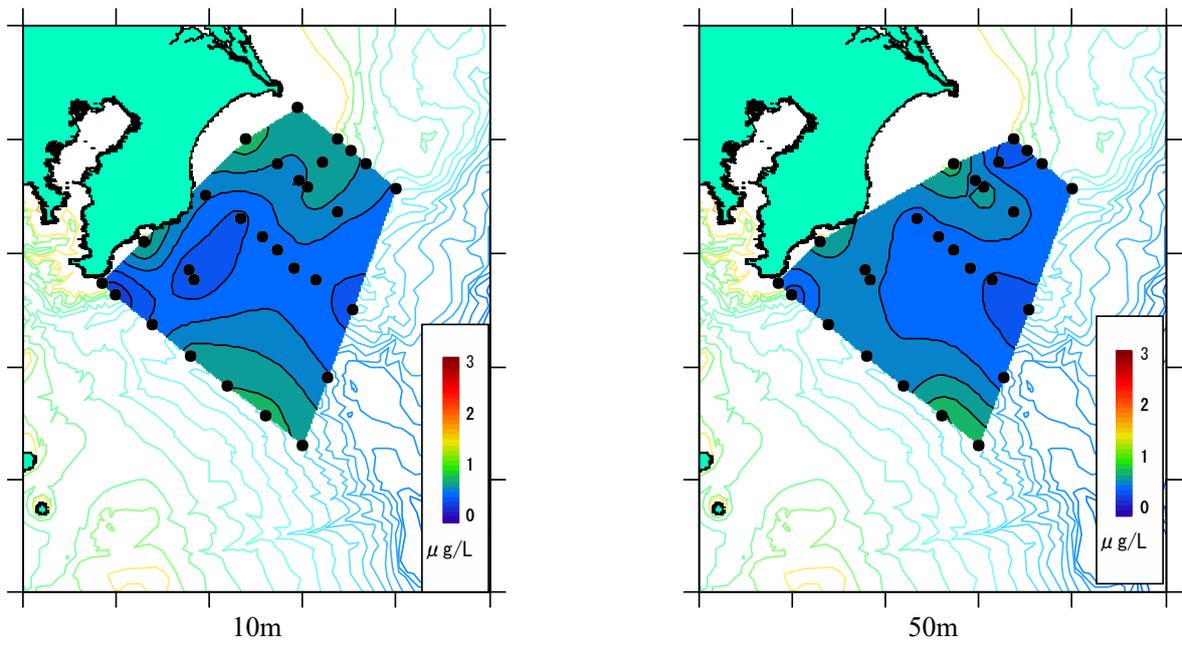
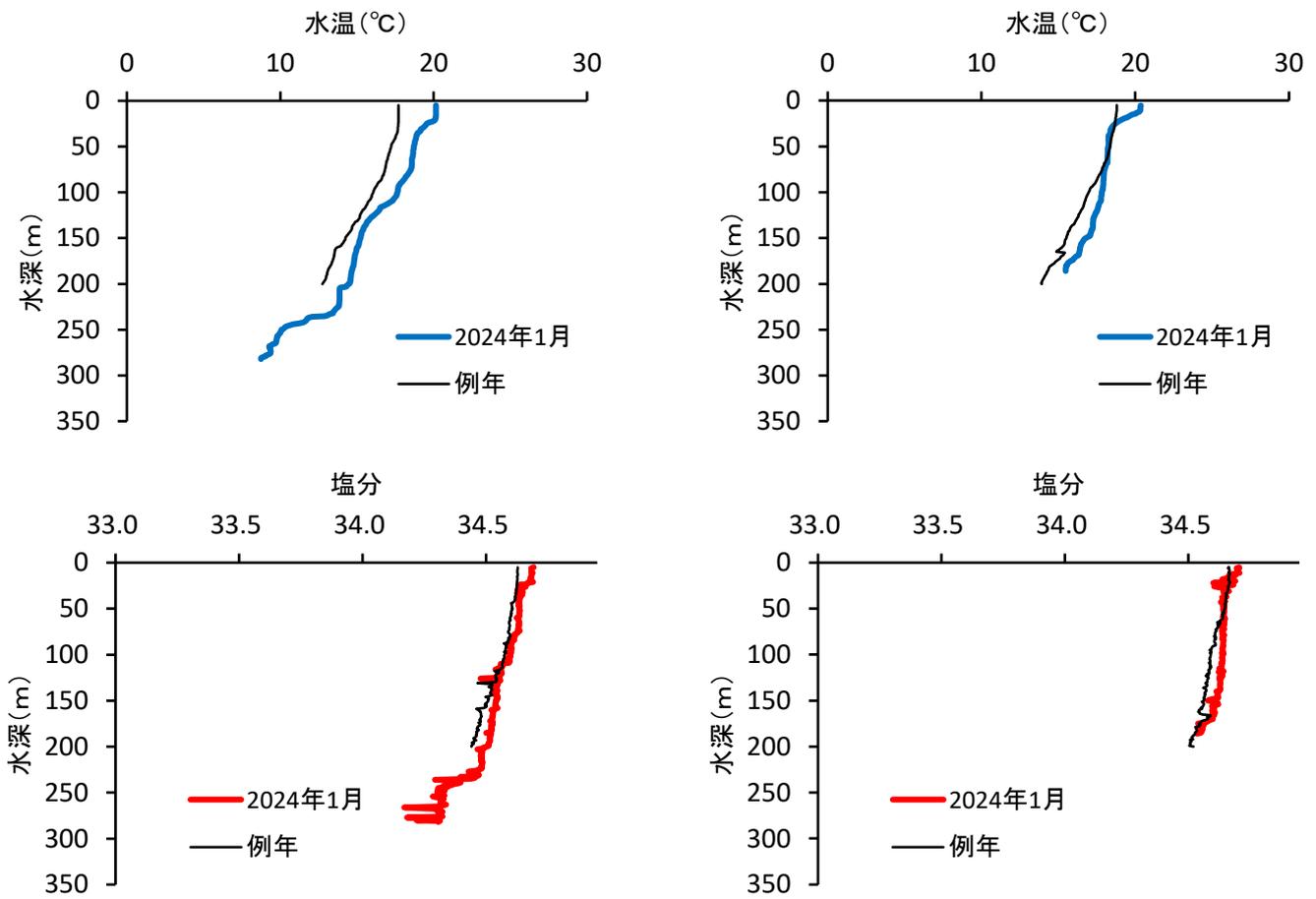


図7 水深別のクロロフィル分布 (単位:  $\mu\text{g/L}$ )



勝浦沖キンメ場

銚子沖台形場

図8 キンメダイ漁場の水温, 塩分鉛直分布 (青: 水温, 赤: 塩分)